

目次

1	序論	1
2	デモクリトスからピタゴラスへ	13
3	経験の哲学	21
	一 コペンハーゲン解釈	28
	二 検討	32
4	分離不可能性	39
	一 補助定理	41
	二 観測の場合	43
	三 対を考える	46
	四 基本定理	49
	五 物理学に戻って	53
六	実験的テスト	59

9	覆い隠された実在	121
	一 税関を越えて	123
	二 覆い隠された実在	136
	三 経験的実在	152
10	神話とモデル	157
	一 一致と相違	162
	二 アニミズム	173
11	科学と哲学	183
	一 巨視性への転化	185
	二 哲学者の最短コース	196
12	分離不可能性と反事実性	203
	一 傾性を表わすことばを定義するという問題に関する認識論的な困難	205
	二 物理法則という概念とのつながり	209
	三 対象に適用された物理的実在論との関連	210
	四 反事実性と分離可能性	212
	五 検討	217

	七	分離不可能性	64
	八	分割不可能性	70
5		いじわるで不細工な幕間劇	73
	一	物質	73
	二	客観性	74
6		科学主義についてのコメント	79
	一	物理的实在論の公準	83
	二	強い意味での客観性の公準	84
	三	多要素説の公準	86
7		経験の哲学に対するアインシュタインの反論	89
	一	アインシュタインの見解	92
	二	アインシュタインによる新しい反論	97
	三	実験による判決	102
8		他のアプローチ——懐疑的な注釈	105

			六	分離不可能性と新しい論理	219
			13	展望	223
			14	結論	255
		付録 I		棒磁石対の場合の定理の詳しい証明	263
		付録 II			265
		注			269
		用語解説			291
		訳者あとがき			297
		参考文献			7
		索引			1